

## 渡島大島の火山活動解説資料（令和3年1月）

札幌管区気象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

#### ・ 火口や噴気の状態（図1～3）

25日に上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）を実施しました。噴気は認められず、赤外熱映像装置による観測では、寛保岳の南東側内壁に引き続き弱い地熱域が認められました。

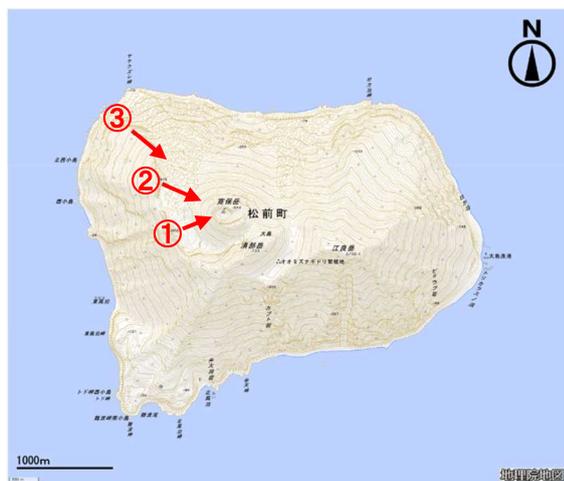


図1 渡島大島 火口周辺図



2021年1月25日  
国土交通省北海道開発局の協力による

図2 渡島大島 寛保岳山頂火口の状況  
南西側上空（図1の①）から撮影

この火山活動解説資料は、札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ([https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php))でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています。

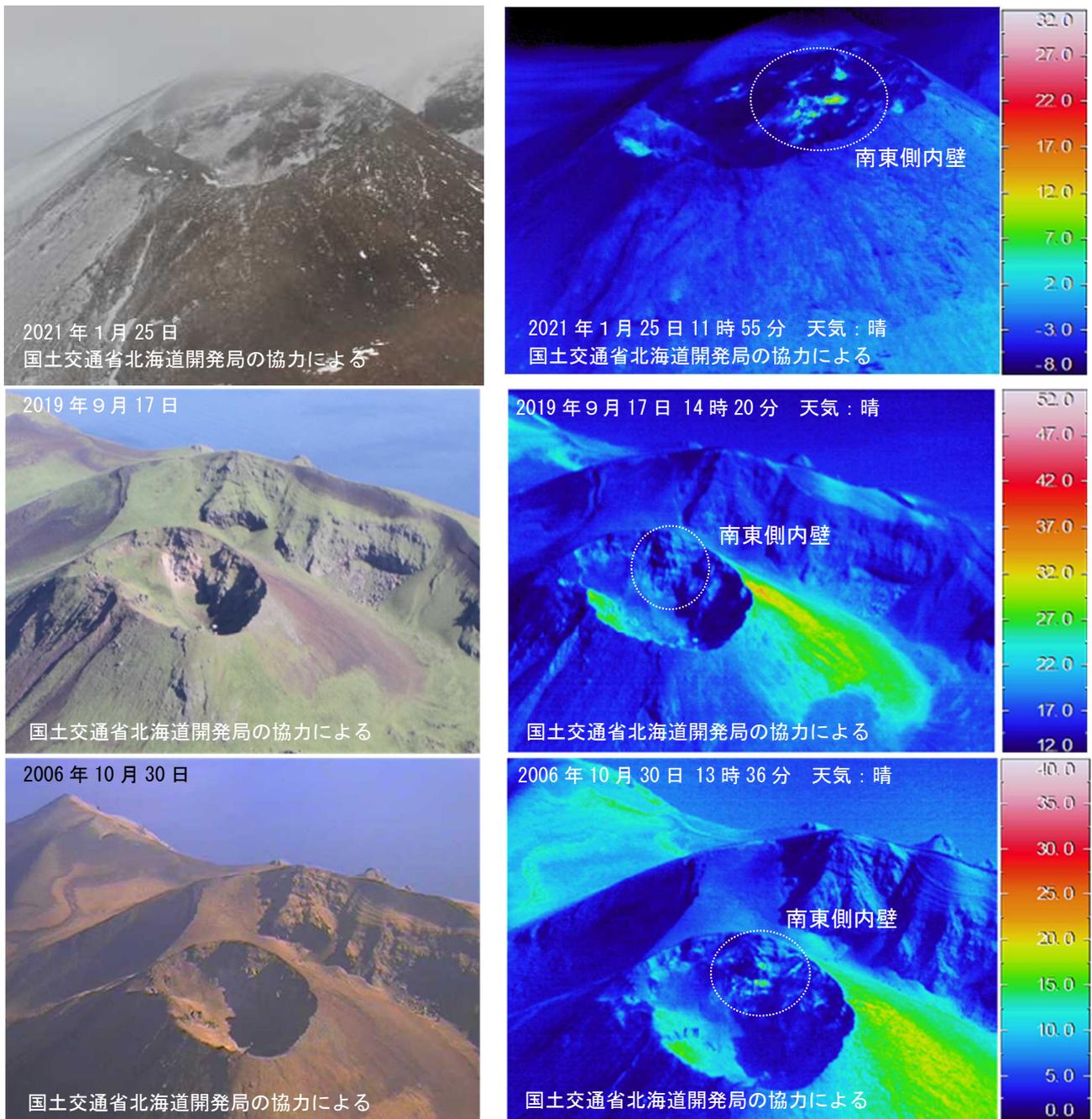


図3 渡島大島 赤外熱映像装置による寛保岳山頂火口の地表面温度分布

上段：北西側上空（図1の②）から撮影  
 中・下段：北西側上空（図1の③）から撮影

- ・寛保岳の南東側内壁には地熱域が引き続き認められました。地熱域の状況は、前回（2019年）は日射の影響で不明瞭ですが、前々回（2006年）とは大きく変わっていないことを確認しました。